

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立城東中学校

1 自己評価書

教育目標 一生懸命な生徒を育てる ～その姿勢が自分も周りも幸せにする！～						
基本方針 校区の人材や資源を生かすとともに、保護者や地域の願いを踏まえながら、校内外の諸活動に一生懸命取り組んでいくことができる生徒を育成する。また、個別最適な学びと協働的な学びを大切に、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育み、変化する社会を生き抜いていく力を身に付けさせる。						
本年度重点目標 1 活気に満ちた生徒活動の推進 2 生徒指導の充実 3 確かな学力の定着と向上を図る学校教育の推進						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	<p>(成果と課題)</p> <p>○全国学力学習状況調査については全国、県より低いが、差は例年の半分程度となっており、上昇している。国語科では「話すこと」「聞くこと」「書くこと」、数学科では「数と式」分野がやや弱い。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善については、教科によって偏りが見られる。</p> <p>○予習・復習・振り返りを例年通りの方法で行ってきたが、主体的な活動になっておらず「やらされている」と生徒が感じている。</p> <p>○図書委員の活動(学級への呼びかけ・入荷する新刊の選定)により、多くの生徒が読書に関心を持つようになったと考えられる。しかし、未だに図書室を利用したことがない1年生が多い。</p> <p>○キャリア教育を軸として自分の将来を考えさせることができた。調べ学習をする中で、地域でできる仕事なのか、地域を出ないといけないのかを考えることで、地域の良さを再確認できた。後期は実際に地域で働いている方や地域の良さを学習する予定である。</p> <p>○総合的な学習の時間の取組について生徒が作成した新聞を、保護者参観に合わせて掲示して学習の様子を見てもらった。しかし、保護者や地域への発信は十分にできているとは言えない。</p>					
	<p>(改善策等)</p> <p>○国語科では「eスタを活用した言語活動」の継続と「書く」能力を育成する活動を新しく行う。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行っている教科は継続し、実施できていない教科ではタブレット等のICT機器の活用(ロイロのシンキングツールなど)の活用方法について研修を行う。</p> <p>○「やらされている」という意識をなくすために家庭学習の「目的」を理解し、それを達成するために取り組むことや自分が「何を学びたい」のか、「どのスキルを身につけたい」のかを明確にしながら家庭学習に取り組むようにさせる。</p> <p>○終わりの会で家庭学習プランシートを作成し、目的を持った家庭学習につなげていく。</p> <p>○国語科の授業等で、図書室で読書に親しむ活動を取り入れ、生徒が図書室に行きやすく、積極的に本を借りられるようにしていきたい。</p> <p>○修学旅行体験後に他地域の良さと宇和島の良さを比較しながら、地域に対する誇りを感じさせたい。</p> <p>○総合的な学習の時間の取組について文化祭などで学習の成果を保護者や地域の方へも発信したい。</p>					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A	
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	B		
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、子ども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、子ども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	A	A
・児童アンケート				B		
自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A		
			・児童アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○生徒は落ち着いた学校生活を送ることができている。 ○不安や悩みを抱える生徒に対しては、アンケートや教育相談等を通じて学級担任を中心とした学年部の対応、必要に応じてサポートルームやスクールカウンセラーの活用などにより、生徒に寄り添った生徒指導に努めることができている。 ○不登校の項目では、生徒と教師との評価に差があるため、指導の手立ての改善が必要である。 ○行事やボランティア活動など、生徒がそれぞれの強みを生かして活躍し認められる場が多くあり、自己肯定感や自己有用感が高まってきている。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○教職員が共通理解・連携の下、不登校生徒に対してサポートルームやわかたけを紹介するなど適切に運営していきたい。 ○2学期も行事やボランティア活動など様々な機会を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感の涵養に努めていきたい。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	B
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○市郡総体残留生徒の時間割を工夫したり、期末テスト後に短縮授業を行うことで教職員の業務に携わる時間を確保することができた。しかし、時間外勤務が80時間を超える教職員の減少にはつながらなかった。</p> <p>○PTA運営委員会と連携し、PTAバレーボール大会を中止にしたり、学級レクレーションを代替で行うなど、PTA行事の精選を行うことができた。</p> <p>○ノ一部活動デイを設定し、計画的な部活動運営を行うことができた。</p> <p>○学年部を中心に、学年行事を考えたり、積極的に雑談等を行ったりすることで、助け合いながら活力があり明るい雰囲気の職場となっている。</p>						
<p>(改善策等)</p> <p>○学年部内、行事担当者の業務内容の平準化に努める。</p> <p>○学年部や担当者にある程度の決定権を持たせ、迅速に業務に取り掛かれるようにする。</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B A B	
			②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	
③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート			A B A
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会の様子をホームページで発信することで、学校運営協議会の取組を保護者に理解してもらうことができた。</p> <p>○数多くの学級通信発行により、保護者に対して学級の様子をリアルタイムに伝えることができた。</p> <p>○スクールサポートスタッフが中心となり保護者や来校者に対して誠実な対応ができていた。</p>						
<p>(改善策等)</p> <p>○引き続き、ホームページ等で学校運営協議会を含めた情報発信に取り組んでいく。</p> <p>○今以上にスクールサポートスタッフ等と連携を図り、来校しやすい雰囲気づくりに取り組んでいく。</p> <p>○保護者や地域の方々の声を大切にし、地域の力を学校運営に生かしていけるよう努めていきたい。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満